

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.124

2010/03/15

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

10年目のスタートは中央湿原復元から



沢沿いコースに咲きはじめたバイカオウレン (10/03/08)



整理作業を待つ中央湿原奥 (10/03/08)

2008年12月通水を完了した北部湿原は、2009年5月初旬まで整理作業を続け、11月末完全復元が出来ました。通水して半年後には、トンボをはじめとする動植物が再生し、復元作業の意義を感じることが出来ました。2匹目のドジョウと言うわけではありませんが、この成果に力を得て中央湿原北側の復元に昨年秋から取りかかりました。除伐・間伐はほぼ終わり後は整理作業を残すのみとなりました。この作業が終われば、湿原の復元は全て完了したことになります。もちろんササや外来種の侵入に対する刈り払いや除去作業は続ける必要があります。この復元さ



カモシカの骨を喰うイノシシ (10/03/04)

れた湿原には、増殖中のサワランも5月に植栽する手はずになっています。絶滅危惧種の2種が、保全作業のおかげで再生（遺伝子の多様性も考慮しつつ）できることになった意義は大きいと思われます。

固定カメラの威力については、前号でも紹介したが、その後固定カメラならではの成果が続々と撮れています。右の画像は、イノシシの親子がニホンカモシカの骨を移動させながら喰っている様子です。イノシシが雑食であることは、よく知られていることですが、まさか大型の動物の骨までも喰うとは、この画像を見るまでは信じられなかったことです。この遺体の大部分は、タヌキが毎夜喰っていたのも撮れています。詳細は、報告会で・・・



積雪期の湿原・総見山から望む (10/02/22)



春の湿原・総見山から望む (09/04/18)



凍ったウリハダカエデの樹液 (10/02/22)

積雪期は積雪期でこの時期ならではの現象が見られます。左の画像は、ウリハダカエデの幹から出た樹液が凍っている状態です。樹液の出口の傷が真新しく、鳥がつついた跡ではないかと推測して撮ったものです。が翌日レンジャーの橋本氏が、ヒヨドリが樹液を吸っている現場を確認しました。カエデということで、「メイプルシロップ」



ウリハダカエデの樹液採取中 (10/03/01)

が思い浮かび、インターネットで調べますと日本でも何種かのカエデから樹液を採取していることがわかりました。そこで「yamakado Syrup」にチャレンジしてみました。



雪明けのいろいろ (10/03/01)

古くて新しい課題

左の画像は、雪解けと春を感じる風景である。子どもの頃から親しんだ光景だが、守護岩の平坦面で、雪明けの穴の大きさと樹種・太さ・枯死の有無・樹皮の色等に差異があるかどうか気になって撮ってみたものである。50 株程で見てみたが、単純に答は出てきそうにないが、なかなかおもしろい課題である。年中観察出来るものでない

いのが厄介だが、丹念に調べて見るとおもしろそうである。

分かっているようで分からない 梅雨時期以降晩秋まで、森のあちこちで見られるタゴガエルであるが、この時期どうしているのか。ヒダサンショウウオは？と過日沢沿いの調査をしました。未だ土の中で冬眠しているのではと思っていたのだが、沢の岩の下に左の個体がいた。気温が低いので動きは鈍いものの、この時期に既に水中にいるとは初所見であった。先年保全作業中に偶然見つけたモリアオガエルは、4 月に入っても冬眠中であつたのだが、タゴガエルは既に、餌を探しに水中に入ったのだろうか。たかがカエルされどカエル、まだまだ観察出来ていないことの多さに楽しみもあるものの、道尚遠しの勘が深い。テーマを決めてチャレンジして下さい。



タゴガエル (10/02/24)



冬眠中のモリアオガエル (07/04/05)

先年保全作業中に偶然見つけたモリアオガエルは、4 月に入っても冬眠中であつたのだが、タゴガエルは既に、餌を探しに水中に入ったのだろうか。たかがカエルされどカエル、まだまだ観察出来ていないことの多さに楽しみもあるものの、道尚遠しの勘が深い。テーマを決めてチャレンジして下さい。